

平成 25 年度教職大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	25K09	氏 名	西島 明佳
研究主題 —副主題—	中学校情緒障害等通級指導学級担当教員による 他校通級生在籍校への巡回指導の意義について		
所属校	福生市立福生第二中学校	派遣先	帝京大学教職大学院

項 目	内 容
I 研究の目的	東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画では、今後、小学校に続き中学校でも特別支援教室が設置されることになっている。東京都A市立B中学校（以下、B中）の情緒障害等通級指導学級では、より充実した支援を行うために通級指導学級担当教員が巡回指導を行ってきた。平成25年度はA市立C中学校（以下、C中）にも情緒障害等通級指導学級が開設され、教員が特別支援教育の理解を深め在籍学級でも具体的な支援を行っていくことが求められている。 B中の通級指導学級が行ってきた巡回指導の意義を明らかにし、その結果を認識することでC中教員の意識に変化が生じるか否かを明らかにすることを目的とする。
II 研究の方法	1 通級指導学級教員による巡回指導の意義に関する調査 平成25年度現在、A市内中学校全3校の通常の学級を担当する教員と平成24年度に通級による指導を受けていた生徒と関わっていた教員にアンケート調査①を行い、巡回指導の意義を明らかにする。対象をGroup A：平成24年度もしくは平成25年度にB中の通級指導学級担当教員による巡回指導を受けていた生徒に関わっていた教員と、Group B：巡回指導を受けていなかった生徒に関わっていた教員とし、各項目の群間比較にはχ^2検定とt検定を用い、$p<0.05$を有意とした。 2 巡回指導の意義を認識することによる教員の意識変化に関する調査 特別支援教育について理解してもらうことと、アンケート調査①で明らかになった巡回指導の意義を認識すると教員の意識はどのように変化するかを検証することを目的とし、C中教員を対象に校内研修会を実施した。 巡回指導を必要と思うかどうかの質問項目を含んだアンケート調査②を校内研修会前に、同じ質問項目を含んだアンケート調査③を校内研修会後に実施し、これらを比較することで校内研修会の前後での教員の意識変化を判定した。 3 通級指導学級担当教員へのインタビュー調査 A市の中学校通級指導学級で巡回指導を担当している教員4人にインタビュー調査を行い、巡回指導の意義と課題について本研究の補足としてまとめた。
III 研究の結果	1 通級指導学級教員による巡回指導の意義に関する調査 Group A：25人、Group B：25人、計50人の教員から回答を得た。質問項目別に検定を行うと、生徒の指導に関する項目として「通級指導を受けている生徒に声をかける回数が通級する前よりも増えた」・「通級で指導してもらいたい内容や課題を通級担任に伝えるようになった」、通級入級に関する項目として「通級の入退級の流れについて把握している」・「今後通級に繋げたい生徒の保護者と通級のことについて話すようになった」で、Group AとGroup Bで有意差が見られた。

	このことから、巡回指導をすると在籍校の教員は「通級指導学級での指導に役立つ教科情報を通級指導学級に伝え、生徒にも声をかけようとする機会が増える」ことと「通級指導学級への理解が深まり、入級の流れが分かることで今後通級指導学級に繋げたい生徒の保護者にも話をしやすくなる」ことが言える。 2 巡回指導の意義を認識することによる教員の意識変化に関する調査 アンケート調査②とアンケート調査③の比較は20名の回答結果で行った。「巡回指導は必要だと思う」の質問項目に「少し当てはまる」「よく当てはまる」と回答した数はあわせて18人であり、巡回指導の意義を感じている教員の数は校内研修会実施前から多いことがわかる。アンケート調査②とアンケート調査③でどのように変化したかを回答者毎にみると、「少しあてはまる」から「よく当てはまる」へ上がった教員が3名、「あまり当てはまらない」から「少しあてはまる」へ上がった教員が2名だった。一方、「少し当てはまる」から「あまり当てはまらない」へ下がった教員は3名だった。校内研修会を通じ巡回指導の意義について伝えたものの、その内容は十分でなかったと言える。 3 通級指導学級担当教員へのインタビュー調査 巡回指導の意義として、通級指導学級担当教員にとっての意義と生徒にとっての利点についての意見、課題として、自校で指導を受ける生徒の心理的負担、在籍校の教員との共通認識、時間割編成の難しさについての意見が得られた。
IV 考察	1 研究の成果 A市内の中学校3校の通常の学級を担当する教員に対してアンケート調査を実施することができた。また、通級指導学級担当教員による他校通級生在籍校の巡回指導の意義が明らかになった。このことにより、東京都特別支援教育推進計画第三次実施計画で進めている特別支援教室の設置や通級指導学級担当教員が巡回指導をすることが、今後中学校でも積極的に取り組まれていくことを期待する。 2 研究の課題 校内研修会で巡回指導の意義について伝えたが教員の十分な意識変化を見ることはできなかった。これはC中の教員の意識が元々高かったとも言えるが、自身の力不足や研修会の内容や発表の仕方に課題があったということも考えられ、効果的な研修会についても再考する必要がある。 3 今後に向けて 通級指導学級担当教員による巡回指導を受けることで生じる生徒の変容については検証することができていない。生徒の変容を客観的データとして理論的に検証することが今後は必要になる。また、通常の学級の教員の通級指導学級に対する意識や期待などを、通級指導学級担当教員に伝えていくことが必要である。